

## 自己評価報告書

平成23年4月26日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401024

研究課題名（和文）アジア・ヨーロッパにおける移住者と受け入れ住民の共通言語教育研究の構築

研究課題名（英文）Construction of educational research of the lingua franca for immigration and citizen in Asia and Europe

研究代表者

松岡 洋子（MATSUOKA YOKO）

岩手大学・国際交流センター・准教授

研究者番号：60344628

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：共通言語、移住社会、複言語複文化、日本：ドイツ：韓国：フランス：台湾、国際教育連携

## 1. 研究計画の概要

外国からの移住者と受け入れ住民が新たな社会を形成するために必要な共通言語の枠組みを、海外の研究者・実践者と情報交換を行いながら構築し、提案する。具体的には、以下の3点についてである。

- (1) 多文化社会における共通言語の内容
- (2) 移住者に対する共通言語教育方法
- (3) 受け入れ住民に対する共通言語教育方法

## 2. 研究の進捗状況

ドイツ、フランス、韓国、台湾に調査に向き、移民に対する言語施策、教育内容、方法、教員養成について研究者・実践者・行政担当者等から情報収集を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 各国とも移住者の社会統合にとって言語能力の重要性が認識されるようになり、政策席に受け入れ社会の言語能力の習得を求める傾向が強まっている。
- (2) 一方、調査対象国における移住者対象の言語教育施策は歴史が浅く、その成果・事業効果については検証中であるが、移住者の言語習得を促進させる効果は認められるようになっており、その結果、移住者と受け入れ住民とのコミュニケーションの重要性が認識されるように変化した。
- (3) 移住者に対する言語教育の成否は教育現場の教師の質にかかっているが、教育現場では優秀な教師が不足している。移住者対象の第二言語教育者の育成が必要であり、その効果的・実践的な養成方法の研究が急がれる。

- (4) 移住者の言語教育施策や方法については各国ともある程度の枠組みがあるが、受け入れ住民側の教育は異文化理解教育にとどまっている。

なお、各国で収集した文献等はデータベース化してリストの蓄積を行った。さらに、韓国、ドイツに出向き、共同研究会を開催し、多文化社会における共通言語教育の枠組み、教師教育について情報交換を行った。また、フランスの研究者を日本に招へいし、公開研究会を08年、09年度末に開催し、同じく情報交換を深め、その成果については口頭および論文等で公開した。（研究成果参照）

## 3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。

(理由)

計画通り情報収集は進み、参考資料の蓄積を行っている。研究者交流のための研究会等も国内2回、海外で3回開催し、共通言語教育の枠組み作成のための基礎資料等は収集した。しかし、2011年3月の東日本大震災の影響により、研究者交流の一部が延期となり、最終年度に持ち越した部分もある。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、これまで蓄積した情報を分析・統合し、移住者と受け入れ社会のコミュニケーションの促進に資する共通言語教育の枠組みを構築する。また、震災の影響により当初6月に国内で開催予定していた国際研究会を年度末に行うが、その際には研究成果として共通言語教育の在り方について提言を行う。また、各種学会、投稿論文等を通

じて成果発表を行う。

5. 代表的な研究成果  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 足立祐子、「第二言語としての日本語教育のかかえる問題」、『社会言語』、別冊 I、2011年、pp.183-200、査読無
- ② 西山教行、「共和国統合をめざす受入れ統合契約と移民へのフランス語教育の制度化について」、『言語政策』、4巻、2010年、pp. 1-17、査読有
- ③ 松岡洋子、「移住者に求められるプロフィールシエンシー考—ドイツ、韓国、台湾の調査から見たこと—」『日本語プロフィールシエンシー研究会国際シンポジウム「生活日本語とプロフィールシエンシー」(発表抄録)』2010年、pp. 37-42、査読無(依頼論文)
- ④ 松岡洋子、「多文化社会の「共通言語」構築を目指す—母語社会と共通言語社会の共存のために—」『外国語教育の文脈化：「ヨーロッパ言語共通参照枠」+複言語主義・複文化主義+ICTとポートフォリオを用いた自律学習」大会予稿集』2009年、pp. 85-88、査読無  
査読無(依頼論文)
- ⑤ Nishiyama, Noriyuki, Pierre Foncin, fondateur de l'Alliance Francaise et l'enseignement de l'histoire : formation intellectuelle d'un républicain au XIXe siècle, Revue japonaise de didactique du francais,3, (2008) pp. 42-59.査読有

[学会発表] (計5件)

- ① 西山教行、「移民の統合政策としての言語教育の展望—フランスを中心としてヨーロッパの事例からの考察(招待講演)」、日本言語政策学会関東地区特別大会、2010年11月27日、國學院大学(東京)
- ② 松岡洋子、「東アジアの移民受入施策—韓国・台湾と日本の類似性をみる—(招待発表)」、日本語教育学会 テーマ研究会「多文化共生社会における日本語教育研究会」2010年度夏季研究会、2010年8月28日、海外技術者研修協会東京研修センター(東京)
- ③ 松岡洋子、土屋千尋、「移住女性の第二言語教育に関する日本語教育からの提言」、2010 世界日本語教育大会、2010年7月31日、台湾政治大学(中華民国)
- ④ 西山教行、『ヨーロッパ言語共通参照枠』から「ヨーロッパ教育空間」へ：ヨーロッパ言語教育政策の新たな展開、日本言語政策学会特別大会、2009年11月21日、京都

大学(京都)

- ⑤ 松岡洋子・足立祐子、「ドイツ・韓国・日本の移住外国人に対する社会統合施策—言語施策を中心として—」、移民政策学会第2回研究集会、2009年3月20日、早稲田大学(東京)

[図書] (計2件)

- ① 細川英雄・西山教行編著、くろしお出版、『複言語・複文化主義とは何か—ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ—』2010年、192
- ② 春原憲一郎編、松岡洋子(3)、足立祐子(4)、ひつじ書房、『移動労働者とその家族のための言語政策—生活者のための日本語教育』、2009年、71-120

[その他]

Youtube による講演公開

- ① 『国際研究集会 2009：外国語教育の文脈化』講演記録(2009年4月6日：京都大学)

西山教行

[http://youtu.be/watch?v=9HQ2gXZ\\_RPQ&feature=relmfu](http://youtu.be/watch?v=9HQ2gXZ_RPQ&feature=relmfu)

松岡洋子

<http://www.youtube.com/watch?v=skyY7-R4osw>

- ② 『国際研究集会：移民の言語教育と教師の資質』講演記録(2009年6月27日：京都大学)

<http://www.youtube.com/watch?v=awpQE Kigtuk>